

令和8年度協働事業実施に係る  
提案の審査について

答 申

令和8年3月17日

水戸市協働推進委員会

## 目 次

### 令和 8 年度協働事業実施に係る提案の審査

審査結果及び全体講評 . . . . .	1
各事業の概要及び委員会意見 . . . . .	2
選考過程・基準 . . . . .	10
委員名簿 . . . . .	11

# 令和8年度協働事業実施に係る提案の審査

## 審査結果及び全体講評

### 【 審査結果 】

本委員会における審査の結果は、次のとおりである。

#### 推薦する事業

- 若い世代で戦争の紙芝居を伝承しよう～デジタル化による新たな紙芝居を創る～
- ためしもいち！市民の“やってみたい”からはじまる景観まちづくり実証事業
- 地域と動物の共生プロジェクト2026
- 次世代継承店舗と学生がつくるまちづくり～起業ゲームから実践へ～
- 参考書バンク
- 水戸に住む外国人市民の地域コミュニティ参加への支援事業  
「うちにおいてよ水戸プロジェクトin有賀」
- みと防災DXサポートプロジェクト

#### 推薦しない事業

- 「戦争と平和」の歴史発掘・発信事業-水戸南飛行場と戦後開拓の歴史を未来へ-

### 【 全体講評 】

令和8年度水戸市協働事業の公募に対しては、前年度からの継続が5事業、新規3事業合わせて8事業の協働事業が提案され、2月27日に公開プレゼンテーションが実施された。

新規の提案事業としては、外国人との多文化共生を目指す事業、正確なデジタル防災情報の取得をサポートする事業、戦争の遺跡と記憶を発掘・発信する事業など、社会情勢を踏まえた必要性の高い取組が提案されており、いずれも意義のある事業であると評価できる。

継続事業については、令和7年度に学生による参考書リユースの事業など5事業が開始されており、一定の成果が得られている。これらの事業については、これまでの成果や新たに明らかとなった課題等を令和8年度以降の事業展開に活用し、さらなる発展につなげていくことが期待される。また、当補助事業終了後を見据え、効果的な情報発信による事業の周知や賛助団体等の拡充に務めるとともに、自主財源で事業の継続が可能となるよう市担当課や関係機関との連携を一層深めていくことが望まれる。

いずれの事業についても、実施に当たっては、提案団体と市担当課において十分に協議し、補助金の適正な運用に留意するとともに、効率的かつ透明性のある事業運営に務めることが求められる。今後、様々な市民活動が振興し、市民と行政との協働によるまちづくりがさらに推進されることを期待する。

## 各事業の概要及び委員会意見

提案事業名	若い世代で戦争の紙芝居を伝承しよう ～デジタル化による新たな紙芝居を創る～	推薦する (225点)
提案団体 一般社団法人オリーブ協会	市の担当課 文化交流課	
事業の概要	<p>戦後 80 年を迎え、戦災体験者は年々減少している。平和の大切さを伝えられる紙芝居はあるが、語り部が不足している。</p> <p>本事業では、これまで公演を行ってきた「戦争の紙芝居」を学生に聴いてもらい、その内容を一緒に考えながら、プログラミングや音・映像の加工などの役割を担ってもらい、長く残せない紙の資料を、半永久的に残せる動画コンテンツ等にデジタル化する。本事業をきっかけとして、若い世代の平和への意識を醸成し、次世代へ語り継ぐ役割を担ってもらうことを目指す。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、戦争体験者が減少し、戦争・被爆体験の風化が懸念される中、学生に紙芝居のデジタル化の一端を担ってもらうことによって、若い世代への平和意識を醸成することを目的としている事業であった。</p> <p>令和 7 年度は、学生への丁寧な指導とメディアを用いた効果的な広報により一定の成果があった。他の賛助金を得て活動した実績があり、自走に向けた取組がなされている。</p> <p>一方で、学生に対し、紙芝居の内容を伝えることよりもプログラミングの方法を教えることに特化しているように見受けられたため、平和事業として戦争の悲惨さや平和の大切さについて考えてもらう要素を増やしていただきたい。</p> <p>令和 8 年度は紙芝居の制作のみに留まらず、Y o u T u b e や S N S 等のインターネットの媒体を使用するなど、制作した紙芝居の普及にも努めていただきたい。</p> <p>本事業の実施に当たっては、デジタル化した「戦争の紙芝居」が若い世代に広く普及することによって、戦争の悲惨さを伝え、平和に対する意識が醸成され、次世代へ語り継がれることを期待する。</p>	

提案事業名	ためしもいち！市民の“やってみたい”からはじまる景観まちづくり実証事業	推薦する (215点)
提案団体 さととし	市の担当課 都市計画課	
事業の概要	<p>備前堀を含む下市エリアにおいて、市民一人ひとりの「やってみたい」という思いを起点に、地域に蓄積されてきた景観資源を生かしながら、新たな関わりや使われ方を生み出していく「景観まちづくり」を実践する取組として以下の活動を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 プレイヤー・運営メンバーの募集と体制づくり</li> <li>2 景観・建物・地域資源に関する学びと視察</li> <li>3 アイデアの具体化と実践イメージの検討</li> <li>4 空き店舗を活用したマルシェ等の実証実験の実施</li> </ol>	
委員会意見	<p>本事業は、下市エリアの歴史や景観を継承しながら、空き店舗等の利活用を行い、景観保全・形成、地域活性化の促進を目指している事業であった。</p> <p>令和7年度の活動では、若い世代が集まり、集客性が非常に高かった。市外や県外からの参加者がいたこともあり、下市に来たことがない方々を呼び込むことができたことは一定の成果があったと認められる。</p> <p>一方で、市民の視点からイベントの広報を見る機会が非常に限られていたため、今後は効果的にイベント情報を周知し、幅広い世代の来訪につながることを期待される。</p> <p>また、1店舗に9つのブースが入る構造は、フリーマーケット等のイベントと類似しており、小さなスペースでの開催や、単発のイベント開催が事業の目的や出展者の定着につながるか疑問に感じた。下市の景観の改善や活性化には回遊性を高めることが重要であると考え、地域の商店会等と連携し、出展者が単発ではなく定着するような仕組みづくりについても検討いただきたい。</p> <p>本事業の実施に当たっては、地域の団体と協力し、本制度終了後にも事業が継続できるよう連携を強めていただきたい。伝統や文化を守りながら関係人口を増やし、下市エリアが発展することを期待する。</p>	

提案事業名	地域と動物の共生プロジェクト 2026	推薦する (212 点)
提案団体	いばらきのシッポの幸せの会	市の担当課 動物愛護センター
事業の概要	<p>動物愛護に関する情報や基本的な動物飼養マナーを地域全体に分かりやすく伝え、動物と人間が共存できる持続可能な社会を目指すとともに、地域のつながりを深め、草の根レベルでの意識改革を実現することで、野良猫問題などの解決や、動物に関するトラブルの未然防止にも寄与する事を目的として、以下の活動を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 飼養の見える化を目的としたステッカーの作成・配布</li> <li>2 ペット終活・ライフプランシートの配布</li> </ol>	
委員会意見	<p>本事業は、動物愛護に関する正しい情報の普及によって、動物と人間の共生を目指す事業であった。</p> <p>令和7年度は町内会・自治会の回覧板に動物愛護に関するリーフレットを常時回覧することで正しい知識を普及したことには一定の成果が認められる。</p> <p>令和8年度はペットの終活をテーマにした広報物の配布を予定しているが、高齢者に自身の年齢や経済的な状況、死亡後の責任をシミュレーションしてもらうなど、高齢者を対象にした啓発活動は課題解決に有効であると考えられる。</p> <p>一方で、高齢者にも新聞を購読していない世帯は多く、掲示や配布については動物病院やペットショップなど、動物を飼っている方や飼う予定の方が利用する場所に設置することが効果的であると考えられる。また、主たる活動が広報のみであれば、協働の必要性が低く、ライフプランシートを活用してもらうためのフォローアップや効果測定について市担当課と検討していただきたい。</p> <p>本事業をきっかけとし、動物愛護に関する正しい知識を広めることで動物について考える機会を創出し、動物と人間が共生するまちづくりに貢献することを期待する。</p>	

提案事業名	次世代継承店舗と学生がつくるまちづくり ～起業ゲームから実践へ～	推薦する (198点)
提案団体 23RDまちづくり株式会社	市の担当課 商工課	
事業の概要	<p>ロマンチックゾーンエリアの特色や、学校が集積しているエリアであることを生かし、大学生や高校生などの若い世代と課題を持つ地域の店舗（次世代継承店舗）が協力して行うワークショップを開催する。学生などのアイデアの地域への取入れや、創業機運の醸成に取り組み、若い力を生かした地域経済の活性化や若者が活躍できる社会の実現を目指し、以下の活動を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 店舗へのヒアリング調査などのリサーチ・アイデア出し・事業計画</li> <li>2 ポップアップショップ実施などの実践</li> <li>3 データ収集と分析など事業成果の評価・共有（可視化）</li> </ol>	
委員会意見	<p>本事業は、ロマンチックゾーン周辺を活性化し、若い世代の創業機運を高めることを目指している事業であった。</p> <p>令和7年度は、学生がフィールドワークを実施し、店舗とのコラボレーションが生まれたことは学生の学びとなり、地域に新たな視点を取り入れることができ、一定の成果があった。</p> <p>一方で、次世代に店舗を継承し、地域経済の活性化という目的に対し、学生の学習の域を超えないのではないかと懸念されるため、商店街の活性化につながるような手法について検討していただきたい。</p> <p>また、下市エリアの「ためしもいち！」と事業内容が類似しているため、相互に情報を共有し、一連のイベントのようにまとめて広報するなど、一体化した取組を望む。</p> <p>本事業を通して、学生が新たな視点で店舗を活用し、ロマンチックゾーンの活性化や店舗の継承に貢献することを期待する。</p>	

提案事業名	参考書バンク	推薦する (230点)
提案団体 茨城高校国際教養コース・これミラ班	市の担当課 ごみ減量課	
事業の概要	<p>受験や試験後に高校生や中学生によって廃棄されてしまう参考書の数を減らし、廃棄削減に貢献し、多様な人々に本と教育の機会を提供することを目的に、高校生の目線で以下のような参考書を中心としたリユース事業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アンケート調査により必要とされる参考書などの具体数の把握</li> <li>2 デジタル技術や学生のネットワークを生かした広報活動</li> <li>3 イベントのブース出店や公共施設において本の譲渡会の実施</li> <li>4 譲渡会にあわせたSDGsセミナーの実施</li> </ol>	
委員会意見	<p>本事業は、参考書の廃棄削減や多様な人々への教育の機会の提供を目指している事業であった。</p> <p>令和7年度は市内のイベントにおいて譲渡会を行っていたが、手作りの段ボールで本棚を制作し、経費削減に努めている様子が印象的であった。譲渡会では来場者に朝顔の種を渡しており、SDGsに叶っていると感じた。</p> <p>一方で、参考書の回収数と譲渡数に大きな差が見られた。廃棄が発生しないよう譲渡場所の確保や広報の強化など、市担当課等と連携して更なる仕組みづくりに取り組んでいただきたい。参考書の一覧表をホームページに掲載するなど、情報発信を充実させて必要な方に届く仕組みづくりを検討していただきたい。</p> <p>また、本制度終了後に自走できる体制づくりの構築を期待する。イベントでの譲渡の機会も限られており、倉庫代や運搬の手間がかかるため、ボランティアや賛助団体を募集するなど、事業が途切れずに発展することを望む。</p> <p>本事業が学生の視点により考えられた協働の取組により市内に浸透し、持続可能な社会の実現が達成されることを期待する。</p>	

提案事業名	水戸に住む外国人市民の地域コミュニティ参加への支援事業「うちにおいてよ水戸プロジェクトin有賀」	推薦する (233点)
提案団体 特定非営利活動法人ちいきの学校	市の担当課 市民生活課	
事業の概要	<p>水戸市に居住する外国人が安心して継続的に生活していくためには、困ったときに頼れる身近な存在があることが重要であり、町内会・自治会など地域コミュニティとの関係を築いていくことが望ましいとされている。そのため、以下の活動を通じた「外国人と地域住民との共生モデル」を作り、水戸市内の各地域に横展開していくことを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 居住外国人・地域住民が自然に交流できる「第三の関わり方」の提案</li> <li>2 地縁型（町内会）とテーマ型（NPO等）の地域コミュニティを緩やかに接続したイベント等へ外国人の参加を促し、町内会参加に繋がる交流の創出</li> <li>3 啓蒙啓発につながるWeb、パンフレット等のツールの作成</li> </ol>	
委員会意見	<p>本事業は、外国人の第3の居場所を提供し、地域の方々との関わりをつくることで町内会・自治会の存続や多文化共生を目指す事業であった。</p> <p>水戸市に居住する外国人は増加傾向にあり、生活人として地域に定着する外国人を対象にした事業は必要性が高い。内原地区には外国人を受け入れている学校があり、本事業のさらなる展開の可能性が認められる。</p> <p>一方で、外国人を実際に呼び込むための手法を明確にし、外国人や外国ルーツの方々が集まるよう関係機関に働きかけるなど、計画的にイベントの実施に取り組んでいただきたい。</p> <p>また、ありが分校は駅から遠く、交通の便が悪いため、外国人が参加しやすい体制を構築していただきたい。米作りにおいては、現地作業等において危険を伴うため、安全管理や傷害保険の加入等の対応には遺漏のないようにしていただきたい。</p> <p>本事業をきっかけとし、外国人との多文化共生を図りながら町内会・自治会を活性化し、取りこぼさないまちづくりの進展を期待する。</p>	

提案事業名	「戦争と平和」の歴史発掘・発信事業 -水戸南飛行場と戦後開拓の歴史を未来へ-	推薦しない (185点)
提案団体 拓友会・水戸まちづくりの会	市の担当課 歴史文化財課	
事業の概要	<p>戦争体験者が減少する中で、失われつつある戦争の記憶を発信し、次世代へ継承することが市の課題である。</p> <p>本市に残る数少ない戦争遺跡の一つである「水戸南飛行場跡」と跡地の戦後開拓の歴史を跡地の開拓者及びその子孫への聞き取り調査、関連資料の発掘から記録化し、それらをまとめた市民協働の展覧会等を開催する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 水戸南飛行場跡地のフィールド調査</li> <li>2 1の調査成果をまとめ、企画展「水戸南飛行場と戦後開拓」(仮題)を開催</li> <li>3 有識者による講演会を開催</li> <li>4 飛行場跡地の散策コースを開設し、現地散策ツアーを開催</li> </ol>	
委員会意見	<p>本事業は、戦争遺跡である「水戸南飛行場跡」を通して、戦争の記憶を発掘・発信することで文化財の保護や平和意識を醸成することを目的としている事業であった。</p> <p>水戸市内でも広く知られていない戦争遺跡を取り上げ、戦争の記憶を記録に残し発信する試みは意義深い。協働事業をきっかけとして市民が戦争の歴史を知る貴重な機会となると考えられる。</p> <p>一方で、歴史保存の取組として短期間の活動を支援する意義はあるが、2年目以降の展望が見えにくく、次世代へつなぐという視点が弱い点が懸念される。「水戸南飛行場跡」の歴史遺産としての重要性をわかりやすく伝え、若い世代を巻き込み、幅広く市民に行き渡るような取組を充実させていただきたい。</p> <p>残念ながら令和8年度の本制度における事業の推薦には至らなかったが、2団体の強みを生かしながら今後も市担当課と連携し、水戸市の文化財保護や平和活動に寄与することを期待する。</p>	

提案事業名	みと防災DXサポートプロジェクト	推薦する (207点)
提案団体 水戸市防災士協会	市の担当課 防災・危機管理課	
事業の概要	<p>地域に根ざした自主防災力の強化を図ると同時に、国・県・市等が発信する防災情報を、市民一人一人が自らにとって必要な情報としての確に入手・活用できる仕組みをつくることを目的としている。</p> <p>地域住民である防災士が地域の中へ入り、自主防災組織役員等と各地区の自助・近助・共助の防災力を高める活動を体系化すること、そしてデジタル防災情報の普及とデジタルデバイドの解消を同時に進めることを目指し、みと防災のための「IT・DXサポート活用講座」を実施する。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、スマートフォン講習等を開催し、市民に正確な防災情報の取得方法を習得させることで防災力の向上を目指している事業であった。</p> <p>インターネット上に様々な情報が錯綜する現代において、高齢者などの市民を対象にスマートフォンで防災に関する正確な情報を取得する方法を学ぶ機会の提供は重要であり、防災士の活躍が期待される。正しい防災情報の取得については、高齢者だけでなく若い世代にも必要性が感じられる。市が作成したWebハザードマップの普及についても市担当課が本事業の活用に前向きな姿勢が見られた。</p> <p>一方で、収支計画書における諸謝金の割合が高く、講師に対する謝礼については、費用対効果及び将来の継続性を鑑みた上で市担当課と補助金の有効な運用について検討していただきたい。</p> <p>また、災害時には電源の確保や多方向通信が困難になることから、デジタルだけでなく、アナログな方式での情報の取得についても合わせて周知できるよう検討していただきたい。</p> <p>本事業を通して防災に関する市民の情報収集力を向上させることにより、水戸市全体の防災力向上に寄与することを期待する。</p>	

## 【 選考過程 】

協働事業提案書をもとに、2月27日に実施されたプレゼンテーションにおいて、事業の概要や協働による効果、役割分担、収支計画などについて、提案団体から説明を受けた。また、提案団体及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審査において、全委員の総合得点をもとに、各提案事業について、公共性や協働の必要性などの面から、協働事業として実施すべきか否かについて審査した。また、効率性や役割分担など、事業の実施に当たって、提案団体と市の担当課がさらに協議を深めるべき事項について意見をまとめた。

## 【 選考基準 】

提案書類とプレゼンテーションをもとに、8つの審査項目に基づいて採点した。各委員の持ち点を40点とし、全委員の採点を合計した総合得点を審査の基礎とした。

また、今回の審査では、提案団体のスキルアップと、より質の高い事業提案を促進するため、総合得点の6割に当たる192点を推薦に値するかどうかの基準として設定した。

### 審査項目及び審査の視点（40点満点）

審査項目	審査の視点	配点
先見性・独創性	新たな着想や創意工夫があるか	5
事業の公共性	不特定多数の利益、社会全体の利益につながるか	5
ニーズの理解	社会的課題や市民ニーズをとらえているか	5
協働の必要度	協働による相乗効果が期待できるか	5
事業の将来性	成果の活用や波及効果など将来展望が明確か	5
手段の効率性	労力や経費などの見積りが適切か	5
役割分担	自立性を尊重し、お互いの長所を生かしているか	5
実現可能性	自己資金の確保や企画内容が実現可能か	5

## 水戸市協働推進委員会委員名簿

氏名	所属等	組織区分	出欠
委員長 金本 節子	茨城大学名誉教授	学識経験者	出席
副委員長 大野 覚	認定NPO法人茨城NPOセンター・commons 常務理事・事務局長	NPO代表	出席
小森田 龍生	常磐大学人間科学部現代社会学科 准教授	学識経験者	出席
谷萩 美智子	水戸市ボランティア連絡協議会 会長	ボランティア 団体代表	出席
大竹 隆志	水戸市住みよいまちづくり推進協議会 副会長	コミュニティ 団体代表	出席
鹿倉 よし江	水戸女性会議 副会長	女性団体代表	出席
加瀬 理	水戸商工会議所 事務局長	関係団体	欠席
大泉 渉	水戸青年会議所 理事長		欠席
小島 幸子		公募市民	出席
菊池 薫			出席